

各 位

会 社 名 株 式 会 社 倉 元 製 作 所  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 鈴 木 聡  
( J A S D A Q ・ コ ー ド 5 2 1 6 )  
問 合 せ 先 取 締 役 経 理 部 長 関 根 紀 幸  
電 話 0 2 2 8 3 2 5 1 1 1

## 特別損益の計上および通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 12 月期第 4 四半期において下記のとおり特別利益および特別損失を計上する見込みとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 20 年 11 月 14 日に公表いたしました平成 20 年 12 月期(平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

### 記

#### 1. 特別利益ならびに特別損失の発生およびその内容

##### [ 特別利益 ]

###### 役員退職慰労引当金戻入益

役員退職慰労金規定の見直しに伴い、役員退職慰労引当金戻入益として連結の特別利益に 133 百万円、個別の特別利益に 131 百万円を計上いたします。

##### [ 特別損失 ]

###### 減損損失

当社子会社ヘルツ電子(株)の磁気ヘッド等製造販売事業廃止に伴い保有資産（不動産）の減損処理を行うこととなったため、連結の特別損失に減損損失 287 百万円を計上いたします。

###### 子会社株式評価損

当社子会社ヘルツ電子(株)が純損失となる見込みのため、個別の特別損失に子会社株式評価損 178 百万円を計上いたします。

###### 投資有価証券評価損

保有する投資有価証券のうち時価が著しく下落したものについて、連結および個別の特別損失に投資有価証券評価損として 205 百万円を計上いたします。

###### 特別退職金

当社子会社ヘルツ電子(株)の従業員に特別退職金を支給したため、連結の特別損失に特別退職金として 87 百万円を計上いたします。

## 2. 通期業績予想の修正

### 修正内容

平成 20 年 12 月期の連結通期業績予想（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）

〔連結〕

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A) (平成 20 年 11 月 14 日公表)	22,800	550	370	530	53 円 57 銭
今回修正(B)	21,641	250	44	287	29 円 01 銭
増減額(B-A)	1,159	300	326	817	82 円 58 銭
増減率	5.1%	54.5%	88.1%	-	-
(ご参考)前期実績 (平成 19 年 12 月期)	30,044	917	481	3,192	330 円 27 銭

平成 20 年 12 月期の個別通期業績予想（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）

〔個別〕

（単位：百万円）

	売上高	加工売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A) (平成 20 年 11 月 14 日公表)	17,800	9,000	250	100	300	30 円 32 銭
今回修正(B)	16,971	8,872	60	244	182	18 円 40 銭
増減額(B-A)	829	128	310	344	118	11 円 92 銭
増減率	4.7%	1.4%	-	-	39.3%	59.0%
(ご参考)前期実績 (平成 19 年 12 月期)	19,467	10,480	276	415	4,917	508 円 80 銭

### 修正理由

〔連結〕

当社連結の通期業績につきましては、金融危機による大幅な景気減速に伴う消費者マインドの悪化から液晶テレビやパソコン、携帯電話などのデジタル機器市場の拡大のペースがダウンするとともに競争激化による販売価格が下落し、第 4 四半期（平成 20 年 10 月～12 月）においては、厳しい経営環境を強いられました。

このような状況の中、連結売上高につきましては、主力の〔ガラス基板加工販売事業〕を中心に売上高が落ち込んだものの〔精密研磨布等製造販売事業〕がハードディスクドライブのディスク向けの受注が概ね堅調に推移し、全体としては 1,159 百万円減の 21,641 百万円となる見込みであります。

連結の利益につきましては、〔ガラス基板加工販売事業〕の売上減に伴う収益面への影響により、営業利益が 300 百万円減の 250 百万円に、経常利益が 326 百万円減の 44 百万円に、当期純損益は 817 百万円減の 287 百万円の損失となる見込みであります。

なお、連結当期純損益の減額幅が個別の減額幅に比して大きいのは、前述の特別損益の影響が大きいことによるものです。

〔個別〕

個別の業績予想につきましては、第 4 四半期（平成 20 年 10 月～12 月）に液晶テレビ等の大型液晶パネル市場の成長鈍化により厳しい受注環境を強いられました。

これら状況を反映し、個別売上高を 829 百万円減の 16,971 百万円に、加工売上高を 128 百万円減の 8,872 百万円に修正いたしました。なお、加工売上高に対し売上高の減額幅が大きいのは、材料有償支給金額を

含む [ カラーフィルタ基板加工品 ] の受注が伸び悩んだことによるものです。

利益面においては生産調整に伴う収益の悪化により、営業損益を 310 百万円減の 60 百万円の損失に、経常損益を 344 百万円減の 244 百万円の損失となる見込みであります。当期純利益におきましては、前述の特別損益の計上により 118 百万円減の 182 百万円となる見込みであります。

以 上

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。